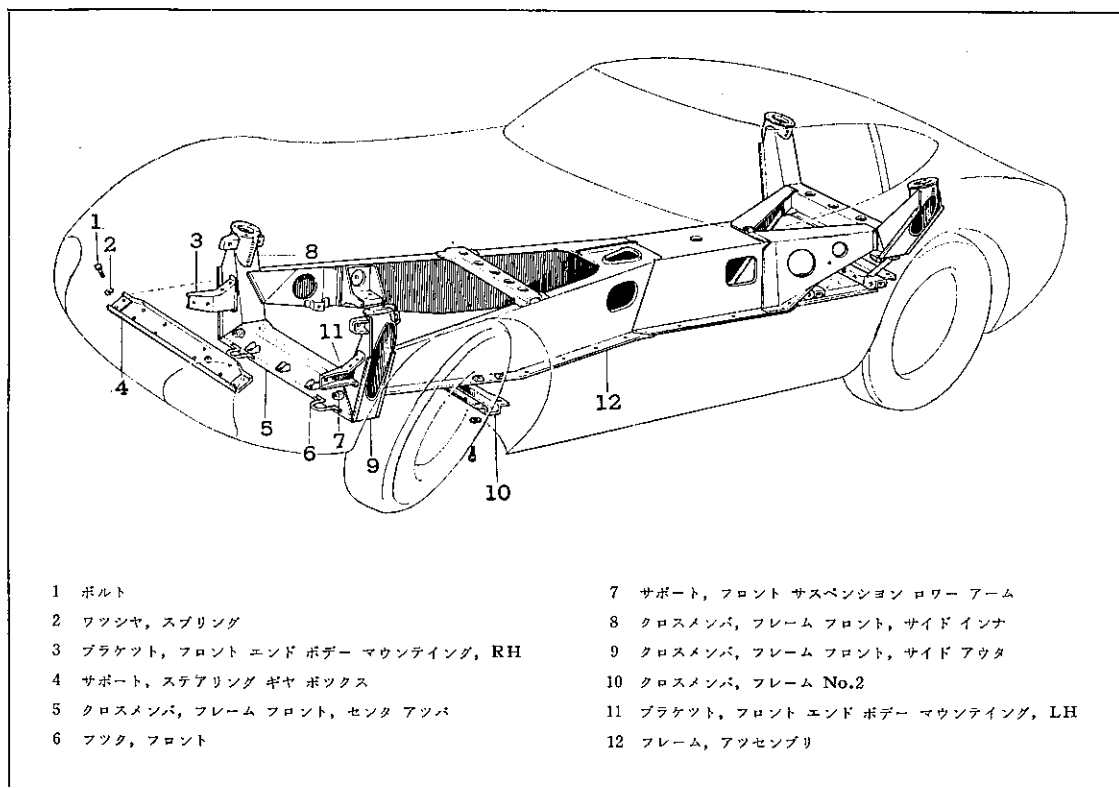


フレーム

| | |
|---------------------|------|
| 構成部品..... | 13—2 |
| 損傷の点検..... | 13—2 |
| き裂の修理方法..... | 13—2 |
| フレーム アライメント点検 | 13—2 |

構成部品



第13-1図 フレーム構成部品

Y5296

損傷の点検

下記の項目について点検し、不具合箇所があれば修正する。

- 1 フレーム メンバ；き裂、ねじれ、曲がり
- 2 溶接箇所；き裂

き裂の修理方法

き裂の再発生を防ぐため、き裂の末端に3~4mm程度のドリルで穴をあける。き裂の周辺をサンドペーパー等で充分きれいにし、できればグラインダー等でV字形に削り、電気溶接する。

注

- 1 ガス溶接では局部加熱の範囲が広くなり、フレームに溶接ひずみが生ずる。
き裂が相当大きな場合には、フレームの板と同じ厚さの補強板を作り、これを電気溶接する。
- 2 補強板の両端は斜めに切り、応力の集中を防ぐ。修正後さび止め塗装をしてふしよくを防ぐ。

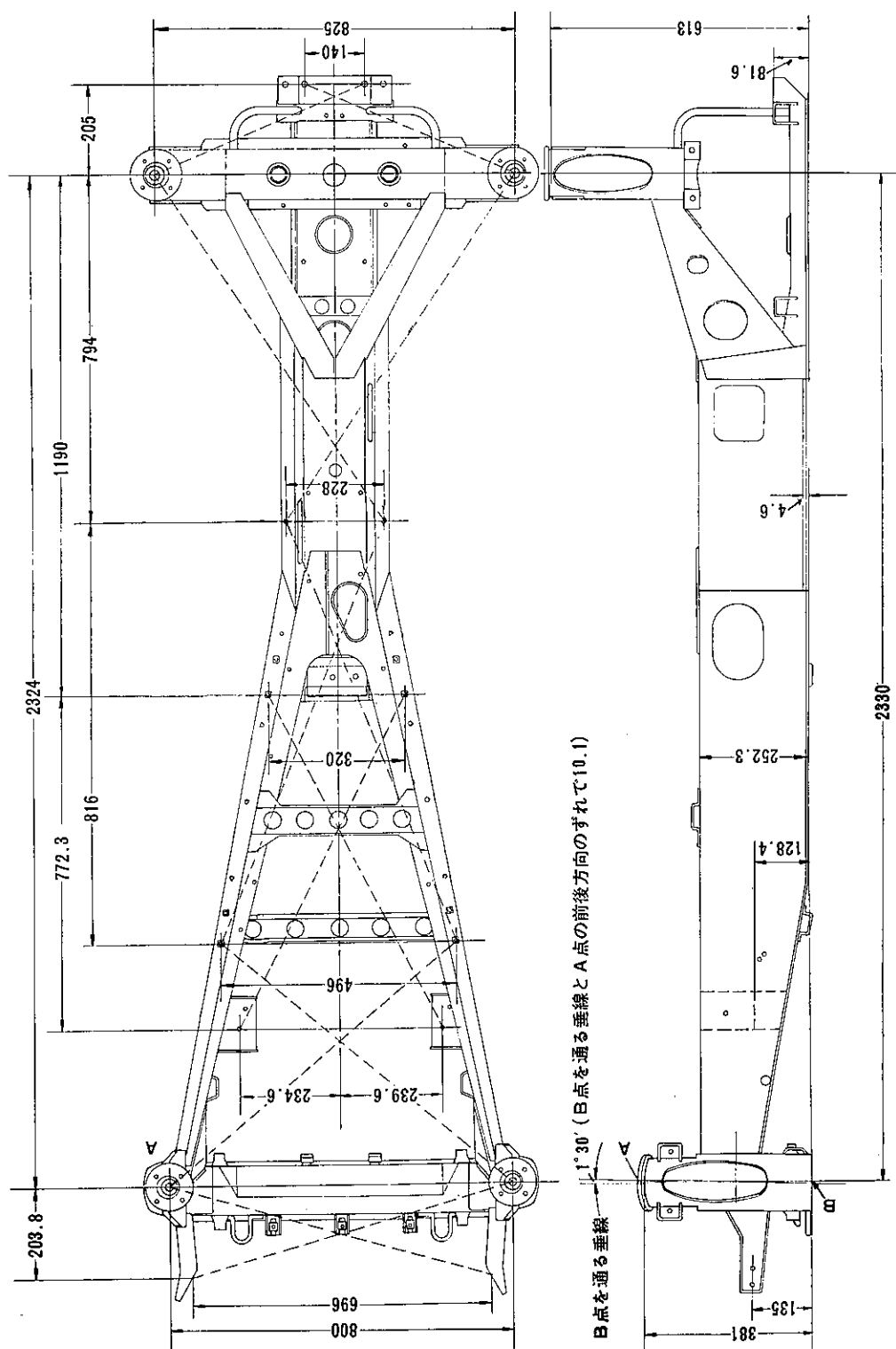
フレーム アライメント点検

事故等で車両を衝突させたり、転覆させた場合等にはフレームが曲がつたり、ねじれを生ずることがあるから、フレーム アライメントを点検しなければならない。(第12-2,3図)

注 同時にステアリング、フロント アライメント関係も点検する必要がある。

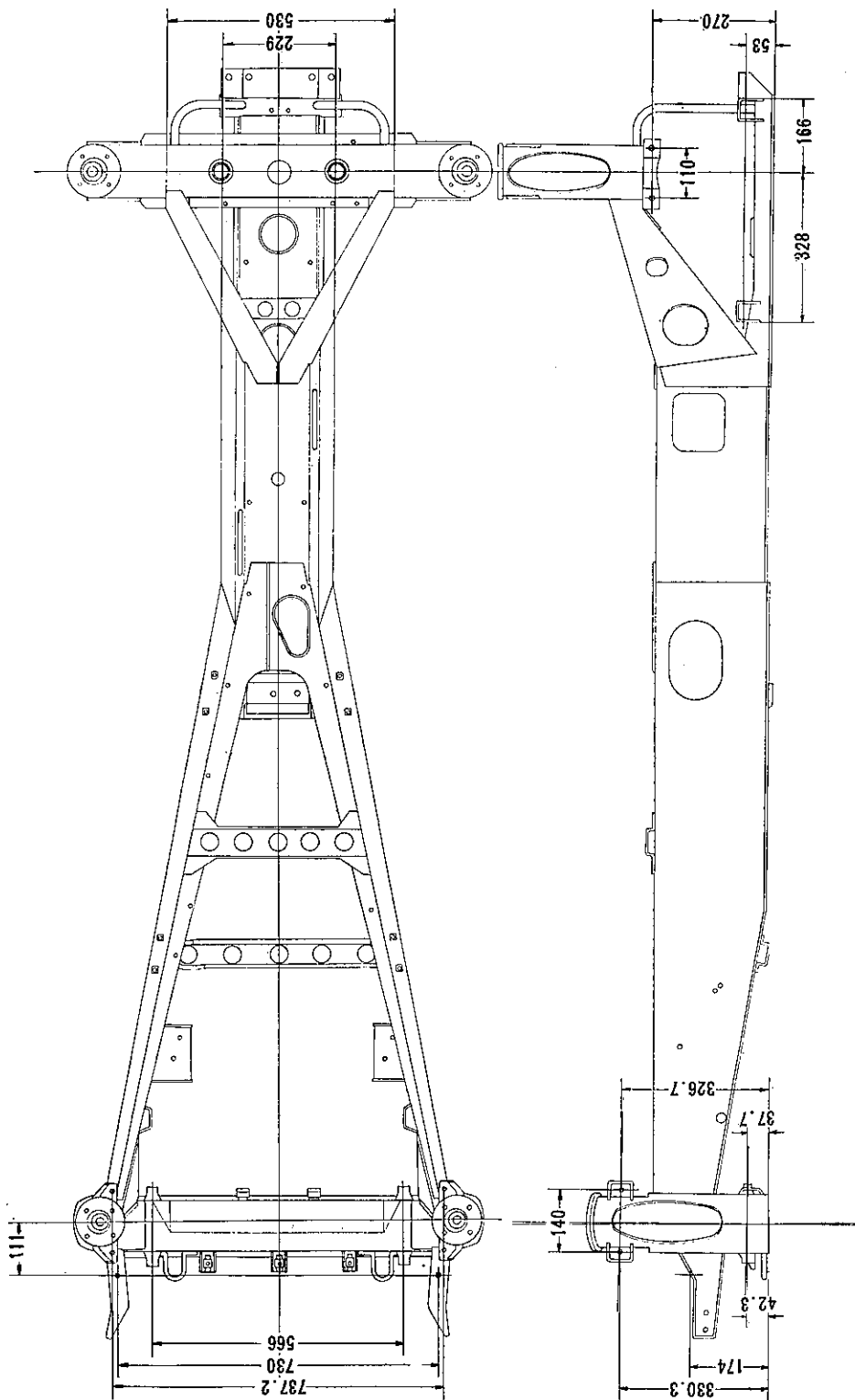
対角のチェツク

- 1 車を平坦できれいな床の上に置く。
- 2 フレームの各主要部からおもりをおろし、床上に印をつける。
- 3 車を取り除き、床上にしるした各ポイントを第13-2図のように結ぶ。
それぞれ対応する寸法を比較し、寸法差が著しく大きい場合にはこれを修正する。



第13-2図 フレーム アライメント (ボデー取り付け関係)

Y5297



第13-3図 フレーム アライメント (サスペンション関係)

Y5298